

立命館大学国際平和ミュージアムの2004年度事業記録

I 管理・運営概要

1. 博物館相当施設

立命館大学国際平和ミュージアムは2005年2月1日に、京都府教育委員会より博物館相当施設の指定を受けた。

2. 組織

●館長

安斎育郎

●副館長

岡田英樹

●事務長（教育文化事業課長）

友藤信明

●課長補佐

芳賀淳子

●職員

山辺昌彦

●契約職員

石井里佳子

川元京子

久保山淑子

長尾聖希

西田茜

渡辺久栄

3. 施設

地下一階

常設展示室 751.40㎡

準備作業室 175.79㎡

収蔵庫 92.56㎡

一階

メディア資料室 244.89㎡

多目的ホール 327.60㎡

事務室 97.34㎡

ラウンジ 387.85㎡

二階

常設展示室 449.49㎡

会議室 117.51㎡

4. 評議会

第1回 2004年5月19日

第2回 2004年10月27日

第3回 2005年3月23日

評議員2004年度名簿

長田豊臣

総長

モンテ・カセム

副総長

坂本和一

副総長

川村貞夫

副総長

甲賀光秀

専務理事

慈道裕治

常務理事（教学担当）

中川勝雄

常務理事（学生担当）

若林洋夫

常務理事（財務担当）

汐崎澄夫

常務理事（中等教育担当）

高杉巴彦

常務理事（総務担当）

佐上義和

研究部長

安斎育郎

館長

岡田英樹

副館長

志垣陽

教育研究事業部次長

友藤信明

事務長

5. 運営委員会

第1回 2004年5月13日

第2回 2004年10月14日

第3回 2005年3月16日

運営委員2004年度名簿

安斎育郎

館長

岡田英樹

副館長

赤沢史朗

法学部

宇野木洋

法学部

藤岡惇

経済学部

三代沢経人

経営学部

森田真樹	産業社会学部
原毅彦	国際関係学部（前期）
本名純	国際関係学部（後期）
君島東彦	国際関係学部
小杉隆信	政策科学部
山崎有恒	文学部
富田美香	文学部
江藤進治	理工学部
松岡正美	名誉教授
井口和起	京都府立大学
吉田保	関西文理学院
佐々木浩二	調査企画課課長
小野房子	中等教育部副部長
志摩慶子	教学部次長
伊藤則男	学生部次長
武山精志	国際部次長
志垣陽	教育研究事業部次長
友藤信明	事務長

Ⅱ 事業概要

1. 資料収集・保管

①寄贈・寄託・保管

博物館資料を、館藏品と寄託とのそれぞれについて、物資料・文書資料・図書に分け、常設展示テーマにそった分類番号を付し、出所先ごとに整理し、収納している。

②燻蒸

2004年度は、夏期休館中の9月1日～4日に、収蔵資料を包み込み方式で、エキボンガスを注入し、24時間の燻蒸をおこなった。

2. 展示

①常設展の参観者

入館者数は次表の通りである。

年度	個人	団体	全体
2004	12305	22184	34489

②常設展の更新

2004年度は、2004年3月にできた基本設計をもとに、詳細設計の検討を進め、8月から展示工事に入り、2005

年1月のはじめに、2階の新しい展示室が開館した。2004年12月の年末に、既存の地下の展示を解体し、2005年1月から地下の展示工事に着手し、4月にリニューアル・オープンした。

新しい常設展のテーマは一五年戦争、現代の戦争、平和をもとめての3つである。テーマ1と2が地階の展示室であり、テーマ3が2階の展示室である。

テーマ1の中テーマは、軍隊と兵士、国民総動員、植民地と占領地、空襲・沖縄戦・原爆、平和への努力、戦争責任であり、このほか、導入展示、主な国の歴史教科書展示、日本国憲法の展示がある。導入展示には、近代の最初から一五年戦争の敗戦までの年表と、一人の子どもが成長し、学徒出陣するまでの歩みと、戦前から戦争末期にかけての時代の動きとを絡めて描く映像展示がある。

テーマ1の映像展示は、植民地と占領地、空襲、沖縄戦、原爆についてと、戦時下の暮らしを復元した民家の隣の壁に背景映像のように映し出す形にしたものがある。

テーマ2の中テーマは、二つの世界大戦と戦争をふせぐ努力、植民地の独立と冷戦、冷戦後の戦争、兵器の開発、現代の地域紛争である。テーマ2には、二〇世紀における世界の戦争と平和を概観するシアターがある。また、生命の保障を妨げているさまざまな事象を紹介する写真を通路部分につり下げる形で展示している。

テーマ2の映像展示は、ホロコースト、戦争を防ぐ努力について、ベトナム戦争、核兵器についてであるが、このうち、戦争を防ぐ努力とベトナム戦争については旧映像を使っている。

テーマ3の主テーマは平和創造であり、これは暴力と平和、市民の平和活動、京都からの平和発信の3つからなりたっている。これ以外、美術作品や児童文学についての展示、市民による平和活動を中心に、新聞の切り抜きを使って紹介する「地球は今」というコーナー、来館者の平和のメッセージの展示コーナーもある。

「無言館」コーナーを拡充し、2階に1室をとって、無言館京都館「祈りの画室」をつくった。

2階の常設展示室の中にミニ企画展示室を開設した。

展示手法としては、きっかけ展示、情報構造シート、音声解説などを取り入れた。

③特別展・ミニ企画展の開催

特別展とミニ企画展の開催状況は以下の通りである。

●特別展：銀のしずく 降る降る一知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界

I. 展示会

会期：2004年5月15日（土）～6月13日（日）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

知里幸恵京都展実行委員会

後援：京都府

京都市

京都府教育委員会

京都市教育委員会

NHK京都放送局

朝日新聞社

京都新聞社

毎日新聞社

読売新聞大阪本社

日本聖公会京都教区

協力：北海道立文学館

旭川市立北門中学校

佐々木豊

知里森舎

国立民族学博物館

大阪人権博物館

株式会社妖精村

参観者：5980人

II. 記念講演会

日：2004年5月15日（土）

会場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館 カンファレンスルーム

演題：知里幸恵について

講演者：小野有五（北海道大学大学院地球環境科学研究科教授）

演題：自由の天地を求めて

講演者：知里むつみ（知里森舎代表）

口演：カムイユカラ「シロカニ ペ ランラン」の解説と吟唱 ウポボについての解説と歌

口演者：中本ムツ子（千歳アイヌ文化伝承保存会会長）・中本玲菜

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：185人

III. 刊行物

感想文集

●特別展：岩波フォト・ドキュメンタリー完結記念「世界の戦場から」写真展

I. 展示会 国際平和ミュージアム会場

会期：2004年6月24日（木）～7月22日（木）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：日本ビジュアル・ジャーナリスト協会

株式会社岩波書店

後援：京都府

京都市

京都府教育委員会

京都市教育委員会

参観者：4640人

II. 記念講演会 衣笠キャンパス

日：2004年7月1日（木）

会場：明学館4階 96号教室

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

講師：豊田直巳（日本ビジュアル・ジャーナリスト協会所属）

参加者：220人

III. 展示会 びわこ・くさつキャンパス会場

会期：2004年10月1日（金）～28日（木）

会場：エポック立命21 エポックホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：日本ビジュアル・ジャーナリスト協会

株式会社岩波書店

後援：滋賀県

大津市

草津市

滋賀県教育委員会

大津市教育委員会

草津市教育委員会

NHK大津放送局

朝日新聞社

京都新聞社

中日新聞社

毎日新聞社

読売新聞大阪本社

参観者：1211人

Ⅳ. 記念講演会 びわこ・くさつキャンパス

日：2004年10月14日（木）

会場：カラーニングハウス 2 階201教室

講師：広河隆一（日本ビジュアル・ジャーナリスト協会所属）

参加者：178人

Ⅴ. 刊行物

感想文集

●特別展：世界報道写真展 2004

I. 展示会 国際平和ミュージアム会場

会期：2004年9月29日（水）～10月24（日）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

社団法人日本写真協会

社団法人日本写真家協会

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

TNT

参加者：8370人

Ⅱ. 展示会 立命館アジア太平洋大学会場

会期：2004年10月28日（木）～11月19日（金）

会場：立命館アジア太平洋大学 本部棟 2 階コンベンションホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真財団

立命館アジア太平洋大学

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

社団法人日本写真協会

社団法人日本写真家協会

大分県

別府市

大分県教育委員会

別府市教育委員会

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

TNT

別府商工会議所

別府青年会議所

協力：大分交通

亀の井バス

参加者：2702人

Ⅲ. 刊行物

感想文集

●特別展：ビキニ水爆被災50年展－放射能と人類

I. 展示会

会期：2004年10月28日（木）～11月23日（火）

会場：国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：財団法人第五福竜丸平和協会

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：東京都

京都府

京都市

京都府教育委員会

京都市教育委員会

NHK京都放送局

KBS京都

朝日新聞社

京都新聞社

毎日新聞社

読売新聞社大阪本社

関連企画：Atomic Shop

関連企画出品：津田睦美（写真作家・成安造形大学助教授）

参加者：5165人

Ⅱ. 記念講演会

日：2004年10月28日（木）

会場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館 カンファレンスルーム

講師：安田和也（財団法人第五福竜丸平和協会事務局長）

講師：竹峰誠一郎（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科院生）

司会：安斎育郎（立命館大学国際平和ミュージアム館長）

参加者：45人

Ⅲ. 刊行物

感想文集

●第1回ミニ企画展：辛木行夫 広島原爆被災回顧油

絵画展

会期：2005年1月7日（金）～3月20日（日）
 会場：国際平和ミュージアム 2階ミニ企画展示室
 主催：立命館大学国際平和ミュージアム

●第2回ミニ企画展：写真展「サハリン追跡」ーサハ
 リン残留朝鮮人の記憶ー

会期：2005年3月23日（水）～5月18日（水）
 会場：国際平和ミュージアム 2階ミニ企画展示室
 共催：立命館大学国際平和ミュージアム

片山道夫

片山道夫さんが制作したビデオ「アリランが流れる島」
 も会場で上映した。

3. 教育・普及活動

①学芸員実務実習

2004年度の学芸員実務の館務実習は、第1期として
 8月4日～8日と10日にと、第2期として8月25日～
 29日と31日の日程で、立命館大学12名、京都橘女子大
 学5名の合計17名を受け入れ、特別展展示プランの作
 成、資料整理、受付業務などを中心におこなった。

実習生名と作成した展示プランは以下のとおりである。

第1期

小林千郷 立命館大学文学部文学科日本文学専攻
 沖縄戦の記憶ーひめゆり学徒隊の悲劇と共にー
 福居桃子 立命館大学文学部文学科日本文学専攻
 戦争と信仰
 中村衣里 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
 戦時中の民衆の思いー兵士・家族を中心にー
 渡部祐介 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
 国家の消滅？ーヨーロッパ統合と平和ー
 後藤香織 京都橘女子大学文学部歴史学科日本史コ
 ース
 加害と被害からみる広島
 海老名悠子 京都橘女子大学文学部歴史学科女性史特
 別コース
 戦争と女性ー戦争形態 総力戦において
 岩政友里 京都橘女子大学文学部日本語日本文学科
 日本文学コース
 身近な戦争文化
 越沢佳子 京都橘女子大学文学部文化財学科修復・
 史跡整備コース
 アジアへの皇民化政策
 相良敬子 京都橘女子大学文学部歴史学科世界史コ

ース

放射能と「ヒバクシャ」

第2期

西嶋知佳子 立命館大学文学部文学科日本文学専攻
 戦時期の文学や教育が子供たちに与えた影響
 飯田早希子 立命館大学文学部文学科日本史学専攻
 軍港舞鶴と引揚港舞鶴ー15年戦争の縮図
 木村蘭美 立命館大学文学部文学科日本史学専攻
 中国歴史教科書の日本人像ー戦時期を中心にー
 桐生明子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
 モザンビーク 内戦の傷跡ー子どもたちの戦いと平
 和への願いー
 塚本洋子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
 ナチスによるメディア政策ー新聞・フォトモンター
 ジュ・ラジオー
 三田奈奈 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
 ナチス体制下の芸術家たちー退廃芸術展と大ドイツ
 芸術展ー
 森本祐加 立命館大学文学部人文総合科学インステ
 イテュート 人間と表現
 少女たちの記憶ー学徒勤労動員の時代ー
 片山晴彦 立命館大学文学部科目等履修生
 薩英戦争ー明治維新への序曲ー

②シンポジウムの開催

●国際シンポジウム「アジアにおける平和博物館の交
 流と協力」

日：2004年6月19日（土）

会場：立命館大学衣笠キャンパス 中川会館4階401
 会議室

立命館アジア太平洋大学 第5会議室

共催：日本学術会議平和問題研究連絡委員会

立命館大学国際平和ミュージアム

報告：日本の平和博物館はアジア・太平洋戦争をいか
 に展示しているか

報告者：山辺昌彦（立命館大学国際平和ミュージアム
 学芸員）

報告：平和博物館が国際平和交流促進のなかで占める
 位置とその影響についてー中日両国青年の南京
 大虐殺事件に関する歴史認識から

報告者：朱成山（侵華日本軍南京大虐殺遇難同胞記念
 館館長）

報告：リニューアル課題を通して平和博物館のあり方
 を考える

報告者：岡田英樹（立命館大学国際平和ミュージアム
副館長）

報告：ベトナム戦争の記憶の継承と新たな平和創造へ
の挑戦

報告者：グエン・カ・ラン（戦争証跡博物館〈ホーチ
ミン市〉館長）

報告：新しい平和運動として新たな平和博物館をはじ
める

報告者：リー・デフン（平和博物館センター）

報告：韓国における新しい平和博物館運動

報告者：リー・スビュー（平和博物館センター）

コメント：国家を越えた平和ネットワークのための平
和博物館

報告者：キム・スンチュル（広島市立大学広島平和研
究所助教授）

参加者：118人

③映画会の開催

●第 3 回映画会

「KT」上映会

日：2004年 7 月 3 日（土）

会場：立命館大学衣笠キャンパス 以学館 1 号ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

共催・協力：如月社

参加者：120人

対談

対談者：坂本順治監督と安斎育郎館長

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

●第 4 回映画会

「ホテルハイビスカス」上映会

日：2004年10月16日（土）

会場：立命館大学衣笠キャンパス 以学館 1 号ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

共催・協力：如月社

参加者：103人

対談

対談者：中江裕司監督と安斎育郎館長

④学生ミュージアム・スタッフ

2004年 6 月から、立命館大学の学部学生・大学院生
を対象に、博物館や平和問題に関心をもつ者から募集
して、特別展の受付・設営・撤去、資料の整理、メデ

ィア資料室の利用者サービス、2階展示室の案内、パ
ソコンへの入力、発送などの業務補助にあたるミュ
ージアム・スタッフの制度を導入した。

4. 交流事業

①日本平和博物館会議

第11回平和博物館会議は、埼玉県平和資料館が開催
館となり、2004年11月10・11日に開催され、立命館大
学国際平和ミュージアムも参加した。

②「平和のための博物館市民ネットワーク」

第 4 回全国交流会を、2004年11月27・28日に東京都
の「ぶんぶ（東京スポーツ文化館）」において、都立
第五福竜丸展示館と東京大空襲・戦災資料センターの
協力により開催した。両館の見学会も開いた。英語版
のニューズレター“Muse”第11号と第12号を2004年
6月と12月に、日本語版の「ミューズ」第12号～第14
号を2004年 5 月、9 月、11月にそれぞれ発行した。た
だし、第13号は交流会の案内のみを載せたものである。

③世界の平和博物館との学術交流協定の締結

2004年度に、中国の侵華日本軍南京大虐殺遇難同胞
記念館、ベトナムの戦争証跡博物館、スペインのゲル
ニカ平和博物館、ウズベキスタンの国際平和・連帯博
物館との間で個別に学術交流協定を締結した。

5. 刊行物

①紀要

『立命館平和研究—国際平和ミュージアム紀要—』
第 6 号を2005年 3 月25日に刊行した。

内容は以下の通りである。

特集 国際シンポジウム「アジアにおける平和博物館
の交流と協力」

日本の平和博物館はアジア・太平洋戦争をいかに展示
しているか（山辺昌彦）

平和博物館が国際平和交流促進のなかで占める位置と
その影響について—中日両国青年の南京大虐殺事件
に対する歴史認識から（朱成山）

リニューアル課題を通して平和博物館のあり方を考え
る（岡田英樹）

ベトナム戦争の記憶の継承と新たな平和創造への挑戦
（グエン・カ・ラン）

新しい平和運動として新たな平和博物館をはじめる
（リー・デフン）

韓国における新たな平和博物館運動(リー・スヒョー)
 国家を越えた平和ネットワークのための平和博物館
 (キム・スンチュル)

討論概要

原爆被爆者集団訴訟の争点とその背景(安斎育郎・清水雅美)

ビバクの社会文化的影響—核実験場とされたマーシャル諸島の現在(竹峰誠一郎)

第五福竜丸展示館からの報告—ビキニ水爆被災50周年にとりくんで(安田和也)

「知里真志保と詩人たち」を論じるために(佐藤＝ロスベアグ・ナナ)

知覧特攻平和会館をめぐる人々の戦後史(岡野紘子)
 武器輸出3原則の緩和を巡る一考察—武器の国際共同生産と日本の防衛産業(松村博行)

立命館大学国際平和ミュージアム2003年度事業記録
 (山辺昌彦)

②だより

『国際平和ミュージアムだより』を刊行し、事業報告、関係者の随想、推薦本・収蔵資料・入館状況の紹介などを掲載している。

2004年度の刊行状況は以下の通りである。

通巻号数	巻	号	刊行年月日
32	12	1	2004年8月6日
33	12	2	2004年10月1日
34	12	3	2005年3月10日

主な記事は以下のようなものである。

●特別展報告

号	回	特別展名
32	45	銀のしずく 降る降る—知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界—
33	46	岩波フォト・ドキュメンタリー完結記念 「世界の戦場から」写真展 国際平和ミュージアム会場
34	47	世界報道写真展 2004

34	46	岩波フォト・ドキュメンタリー完結記念 「世界の戦場から」写真展 びわこ・くさつキャンパス会場
34	48	ビキニ水爆被災50年展—放射能と人類

●共催展報告

号	回	特別展名
32	3	「戦争と平和と学園風物」展

●映画会報告

号	回	映画会名
34	1	映画「ホテル・ハイビスカス」上映会

●館長あいさつ「巻頭つれづれ」

号	回	題
32	28	ラジオ・カフェの「ティー・タイム・エッセイ」
33	29	肉団子の話
34	30	「忙」と「忘」

●企画運営委員連載

号	回	題 (執筆者)
32	21	地球温暖化がもたらす貧困層の犠牲 (小杉隆信)

●連載 新生ミュージアムの姿

号	回	題 (執筆者)
32	1	地階展示室—直接的暴力を描く (岡田英樹)
33	2	2階展示室—誰がどのように平和をつくる のか (君島東彦)
34	3	1階の新展開 (岡田英樹)

●ミュージアムおすすめの一冊 (執筆者は山辺昌彦)

号	回	書名
32	32	常石敬一著『化学兵器犯罪』
33	33	川崎昭一郎著『第五福竜丸』
34	34	内藤陽介著『切手と戦争』

●スポット ミュージアムの収蔵品 (執筆者は山辺昌彦)

号	回	題
32	28	野村銀行京都支店の絵葉書
33	29	帝国在郷軍人会修学院分会の軍事講演会ポ スター
34	30	辛木行夫さん制作の広島原爆被爆回想油絵 「千田町広鉄局前の図」

●その他記事

号	題 (執筆者)
---	------------

32	「戦争と平和と学園風物」展を開催して (調海明)
32	「知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界」を知って (藤井修)
32	特別展「銀のしずく 降る降る—知里幸恵『ア イヌ神謡集』の世界」によせて (佐藤奈奈)
32	2003年度 資料・図書などの寄贈者一覧 (山辺昌彦)
33	国際シンポジウム「アジアにおける平和博物館 の交流と協力」成功裏に閉幕 (岡田英樹)
33	映画を通して“平和”を考えるということ (神谷雅子)
33	平和博物館を〈見る〉ことのむずかしさ (福島在行)
33	掛谷幸平氏の寄贈資料について (尾川昌法)
34	夏期研修報告「京都大学大学文書館を訪ねて」 (久保山淑子)
34	平和のための博物館・市民ネットワーク第4回 全国交流会の報告 (山辺昌彦)

●これら以外に、「平和へのメッセージ」(常設展感想文)、入館状況、事業予告、編集後記などを掲載している。

6. 資料の特別利用

2004年度の展示会などへの主な貸出状況は次の通りである。

●企画展 絵に見る戦時下のくらし
主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：4.11～7.4

貸出：資料71点、写真パネル9点

●収蔵品展 戦争が遺したもの

主催：日吉町郷土資料館

会場：日吉町郷土資料館

会期：7.17～9.23

貸出：資料4点

●平和の夏まつり

主催：京都生活協同組合乙訓ピースクラブ

会場：コープ向日市

会期：7.17

貸出：資料25点

●2004年平和のための戦争展わかやま

主催：第15回戦争展わかやま実行委員会

会場：プラザホープ

会期：7.23～25

貸出：資料26点

●西賀茂平和まつり

主催：西賀茂平和まつり実行委員会

会場：鹿の下公園

会期：7.31

貸出：写真パネル1組

●'04平和のための京都の戦争展

主催：'04平和のための京都の戦争展実行委員会

会場：立命館大学国際平和ミュージアム

会期：7.31～8.8

貸出：資料46点

●長野西夏祭り

主催：愛知川町大字長野西自治会

会場：長野西公民館 長和荘

会期：8.1

貸出：写真パネル1組

●戦争・平和に関するパネル展示

主催：大山崎町

会場：大山崎町役場ロビー

会期：8.2～20

貸出：写真パネル1組

●平和パネル展

主催：高島原水協

会場：安曇川 新旭

会期：8.5～7

貸出：写真パネル1組

●ふしみ平和まつり

主催：04ふしみ平和まつり実行委員会

会場：伏見公園

会期：8.8

貸出：資料24点

●平和展 ピースメッセージ2004

主催：平和展を開催する会

会場：藤井寺市役所ロビー

会期：8.9～13

貸出：資料5点、写真パネル1組

●平和を考えるパネル展

主催：甲南町

会場：忍の里プララ

会期：8.10～24

貸出：写真パネル1組

●長岡京コープ 平和の夏まつり

主催：京都生活協同組合乙訓ピースクラブ

会場：長岡京コープ

会期：8.28

貸出：写真パネル1組

●企画展 沖縄平和賞受賞者中村哲氏の活動

主催：沖縄県平和祈念資料館

会場：沖縄県平和祈念資料館の子どもプロセス展示室

会期：9.16～10.11

貸出：写真パネル1組

●企画展 戦時下に生きた女性たち

主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：10.8～12.23

貸出：資料1点

(文責 山辺昌彦)